

平成29年6月19日（月）、雲南市立西小学校4年生30名に対して、第1回みーもスクールとして、森の名手・名人の響繁則氏に指導いただき、森林作業体験「学校林で間伐、枝打ち体験」を実施しました。



最初に間伐についての座学があり、林業技士の野田真幹氏から、間伐が遅れて真っ暗な森と光が適度に差し込む元気な森との違いについて、生徒一人一人が苗木になり全体でパフォーマンスをして学びました。樹木にとって光が大切である事、適度な間伐をする事の意味を学びました。



次に森へ出かけて行き、事前に行われた森の健康診断のデータも参考に間伐する木を選び、ロープと滑車を使って、チェーンソーと連携もしくは、自分たちの力で手鋸のみを使って間伐作業を行いました。



倒した木はきれいに枝払いをしました。  
初めてノコを使った児童もあり安全な道具の使い方についても、響氏から教わりました。



平成29年7月10日（月）、雲南市立西小学校4年生30名に対して、第2回みーもスクールとして、「ヒノキの皮から和紙づくり体験」を実施しました。前回、間伐体験をしており、その流れで本日の紙漉きとなりました。



島根県森林インストラクターの野田真幹氏から、和紙づくりについて、基本的に使われる植物とそれらに関する知識、ネリの役割などを学び、ネリづくりから体験をスタートしました。



次に、和紙作りで重要な工程である「叩き」を行いました。



いよいよ紙漉きです。島根県森林インストラクターの藤原人美氏・福岡茂明氏の指導で全員が紙漉きを成功させました。



完成した和紙は、葉として活用される予定です。

平成29年9月4日（月）、雲南市立西小学校4年生30名に対して、第3回みーもスクールとして「ネイチャーゲーム」の指導を行いました。



学校の周辺を目隠しして、みんなで協力しながら恐る恐る歩きました。五感の中でも特に目の大切さを実感したようです。また、聴覚や臭覚・触覚が目隠しをすることによって鋭くなることも分かったようです。



学校林の中にも目隠しで入ってみました。日陰と日向で顔に当たる風や日の温かさの違いを発見して驚いたようです。普段何気なく過ごしていると見過ごしていることがたくさんあることに気付いたようです。



カモフラージュをした、生き物では無いものを捜すゲームでは全問正解のグループはいませんでした。カモフラージュをしている動植物等、池田氏から絵を使って擬態についてお話をして頂きました。



音を自分の感性で絵に描いてみました。ピカソ的な絵や、点や線などで描写した絵など素晴らしい芸術作品が出来ました。

平成29年11月6日（月）、雲南市立西小学校4年生30名に対して、第4回みもスクールとして、「飾り炭づくりと焼き芋体験」の指導と「森の響さん」の話をしました。



3班に分かれて、アルミホイルでさつま芋を包み、焼き芋の仕込みをしました。焼き芋をするには、熾火である事が大切です。できあがるまで約50分かかります。その間に飾り炭の準備をしました。



炭がどのようにしてできるかを説明し、木の実や竹等専用の缶に詰め、飾り炭を作りました。



缶から飾り炭を取り出し、栗のイガがそのままの形で炭になっていたり、炭の一部が青白くなったり、金色に見えるものが出ていて驚きました。「森の響さん」の話をして、焼き芋を美味しくいただきながら、質問や感想を聞きました。

平成29年12月4日（月）、雲南市立西小学校4年生30名に対して、第5回みーもスクール、学校林内での「樹木学習」の指導を行いました。



学校林に入る前に注意事項を聞いてから、3チームに分かれて学校林（いわくまの森）に入り、樹木学習を行いました。



事前の安全確認の際、児童が必ず観察する樹木をピックアップして準備をしていた為、児童が等しく学習できました。インストラクターの方々に、各々工夫して分かりやすく説明できるよう準備をして頂きました。児童は熱心に聞き、質問もしていました。



教室に帰って、いわくまの森のテキストの使い方や、観察した樹木のおさらいや補足、児童から感想を発表してもらいました。

平成30年2月2日（金）、雲南市立西小学校4年生30名に対して、第6回みーもスクールとして、「森林保全の大切さ」の講義と「巣箱の付け替え」を実施しました。



事前の安全確認の際、4つの巣箱の内2ヶ所に巣が作られていた為、3ヶ所を全員で開けて見ました。全ての取り付け場所で巣を作るとは限らないので、その事を知ってもらうためでした。

また、巣はみんな鳥の巣ではなく、動物（おそらくネズミでは？）が使用したのではないかと、巣の形から違いを説明する事ができ、良い観察材料となりました。（鳥の巣は学習館に持って帰り展示してあります。）



中村氏から、巣の役割や、鳥の特徴・見分け方、巣箱の付ける場所や適した木について話を聞きました。木がなぜ必要なのか、みんなで鳥や動物になったつもりで考え、森の大切さについて改めて気づいたようです。



最後に教室で、まとめとして「森林保全の大切さ」について話をしました。

ここ数日には珍しい、光のさす穏やかな2時間でした。（\*今年度は新しい巣箱を1つ作り、5個の巣箱の取り付けを行いました。巣は蜘蛛の巣などが張っていると鳥が使用しないため、必ず毎年きれいにする必要があります。）